



500枚の思い出

浅ノ川総合病院 上原 雅美

9月、3日間の夏休みをいただきました。

20日から3日間。祝日休日の回診には出なければなりませんでしたが、一応、「7日間の大型連休」にさせていただきます。

「旅行にでも行くのか？」と尋ねる上司のS先生に聞かれれば

「いーえ。子供は学校だしおまけに試験直前。ついでお金にもそんな余裕がございません！」

「……そんなに家におってどーするんや……。」

「あははは……」

……実は、やらなければならないことがあったのです。

大きな引き出しにぎゅーぎゅーに詰まった思い出(写真)整理。貯めも貯めたり、12年分。(ああ、恥ずかしい)12年前、主人のアメリカ留学についていった時までは時間にも余裕があり写真もきちんと整頓していました。

帰国して仕事にも復帰しますと、持ち前の要領の悪さと無精が災いして思い出は引き出しの中にたまる一方。とうとう入りきらない事態に。

さて……何しろ膨大な枚数の写真ですので、とても机の上で作業できません。

寝室の床に大きなレジャーシートを敷いて作業開始です。

「地層」の関係で、上には年代の新しいもの・下にいくほど古いもの……のはずですがなぜかかなりの地層の変動があったよう。

泣く泣く発掘作業・年代判定から始めることになってしまいました。

12年の経過で当時4歳・2歳だった3人も今では高校生と中学生。

ごそごとシートに写真を掲げると、てちてちと可愛らしく走り回っている姿・無邪気に笑っている姿・あどけなく眠っている姿……から現在の小生意気な姿までがシートいっばいに並びました。

保育園・小学校行事から家族であちこち旅行した時のことなどさまざまな思い出にふけりながら、1日1日の成長には気がつかなくても、12年の間に子供とは(身体的に)かくも成長するものかと改めて感心してしまいました。

その一方で、こちらは成長するどころかじりじりと「退化」の兆しが見えている今日この頃。せめて医師としてはまだ退化したくない・ついでの気持ちだけはまだ若いままにいたいなどと切実に思いつつ、時間経過とともに徐々に増す腰痛と闘いながら500枚近くの写真整理を終えました。……3日かかりで。

こまめに整理整頓しておけば、こんなイタイ目には会わなかったのに…と思いつつ、一方でこういう事でもなければこんなにまじまじと写真を眺めたり、思い出をたどることはなかつたらうと、少し得した気分になってみたり。

ほんの少し寂しかったのは、子供がこれだけ成長している間に、はっきりと自分が積み重ねて来たものがないような気がしたことでした。仕事・育児、それにほんのわずかな家事をこなすのが精一杯で、気がついたら12年も経っていた…という事実。「こんなことでいいのか？」と少なからず危機感を感じてしまいました。

子供も今では高校生・中学生となり、いつの間にかあまり手はかからない(その代り、金はかかる)年代になりました。

以前に較べれば、少しだけ自分のことを考えながら日々過ごせるようになって来たこの頃、医師として成長して行くのは難しいにしても、せめて「退化」していかないようにしないとっております。

12年間の無精が祟って激しい腰痛に悩まされた休日となりましたが、子供と自分の12年間を振り返り、少しだけ今後の在り方を考えるいい機会となりました。